

植林地内動物観察報告

白内 進

初めて自動カメラを購入したのは 2019 年 5 月でした。自分たちの植林地に生息する動物たちを見られたら素晴らしいだろうなあ。そのためには動物を検知するセンサーが必要になるし、そのような仕掛けを作るのはハードルが高いし、費用面からもまず無理と以前はあきらめていました。ところが或る日ネットで調べていると、温度センサー付き自動カメラを使った動物の動画が掲載されていて、入手可能な価格であることがわかり、心がときめきました。それから具体的に設置を前提に調べ始めました。標高約 700m で樹木が倒される程の強風、冬は作業小屋の屋根付近までの積雪さらに防水対策、電源の供給方法、樹木への取付け、盗難防止などについて会員同士で話し合っ購入が決まりました。1 台目を使ってみて満足できる画像が得られたので、徐々に台数を増やして現在 5 台の設置が可能となっております。

以下の写真は 2019 年 11 月から 2020 年 3 月の冬期休会中に撮影されたものです。

2019.11.24～2020.3.8 : カメラをツリーハウスに設置して冬季撮影

キツネ 2020 年 2 月 1 日 11:29 (写真 1)

2020 年 2 月 28 日 21:45 (写真 2)



去年埋めておいたネズミはどの辺だったかなあ

見事に一直線に歩いています お見事！

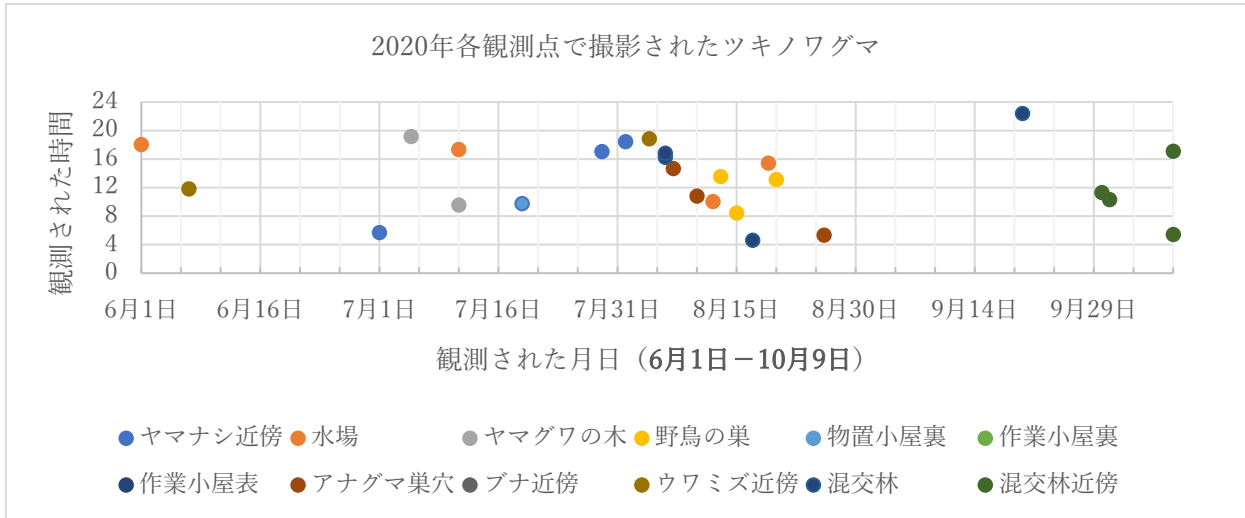
2020 年 3 月 6 日 14:47 (写真 3)



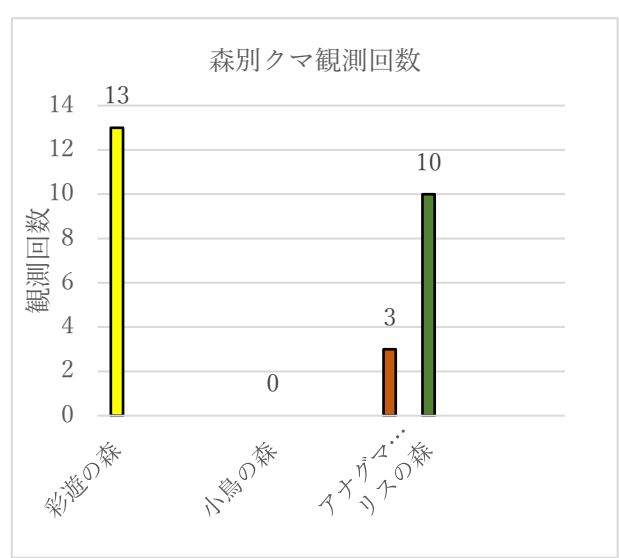
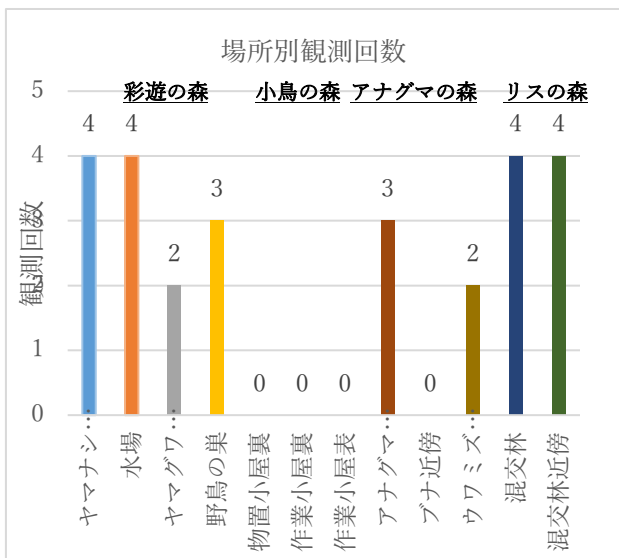
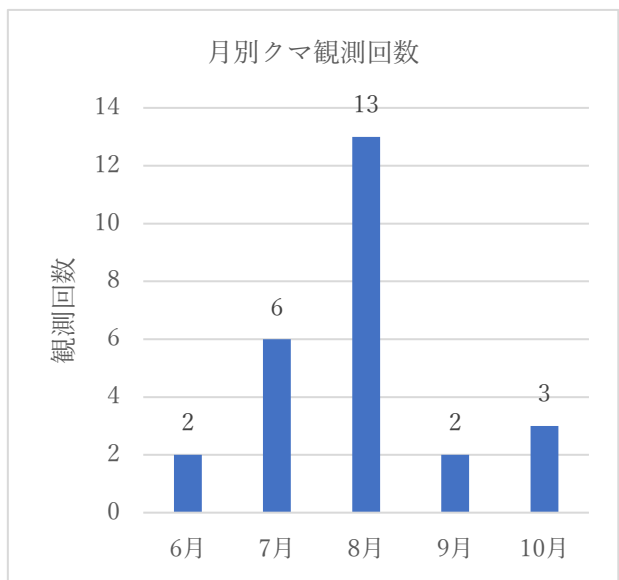
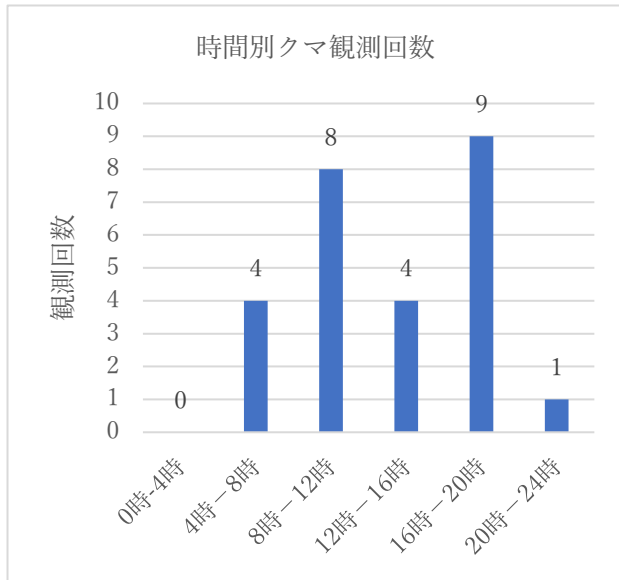
この後このキツネは右上の方向に歩み去り、間もなく“ギャー”という悲鳴のような鳴き声が・・・これがキツネの鳴き声なんです！“コンコン”とは鳴かないんだ

以下は 2020 年 4 月～11 月に実施した色々な動物の観察記録です。

(1) ツキノワグマ



<図-1>



・カメラ設置期間と観測回数

	ヤマナシ近傍	水場	アナグマの巣穴	針広混交林	ブナ近傍	ウワミス近傍
カメラ設置期間	5/3-9/27	5/24-11/22	4/12-11/22	7/26-9/27	4/12-6/28	5/24-8/9
観測回数	4	4	3	4	0	2
最初の観測日時	(7/1) 5:43	(6/1) 18:04	(8/7) 14:42	(8/6) 16:17		(6/7) 11:48
最後の観測日時	(8/1) 18:28	(8/19) 15:28	(8/26) 5:22	(9/20) 22:25		(8/4) 18:51
	混交林近傍	ヤマガワの木	野鳥の巣	物置小屋裏	作業小屋裏	作業小屋表
カメラ設置期間	9/27-11/22	6/28-7/12	8/9-8/23	6/14-6/28	9/27-11/9	11/22-3/14
観測回数	4	2	3	0	0	0
最初の観測日時	(9/30) 11:20	(7/5) 19:12	(8/13) 13:35			
最後の観測日時	(10/9) 17:07	(7/11) 9:34	(8/20) 13:06			

・観測された期間：6月1日（水場）—10月9日（針広混交林近傍） ・総観測回数：26回

この年ツキノワグマが最初に撮影された水場は2004年植林地内にあり、すぐ近くに給水タンク（麓の集落への給水施設）が設置されていて夏の渇水時期を除いて水でぬかるんでいる場所です。

一方この年最後に撮影された場所はリスの森で針広混交林実験林近傍の2002年植林地です。この場所で10月9日を最後にそれ以降観測されておりません。ツキノワグマの冬眠期間は11月頃から翌年4月頃までの5～6ヶ月という説から考えますと、このころから冬眠準備に入ったのかも知れません。

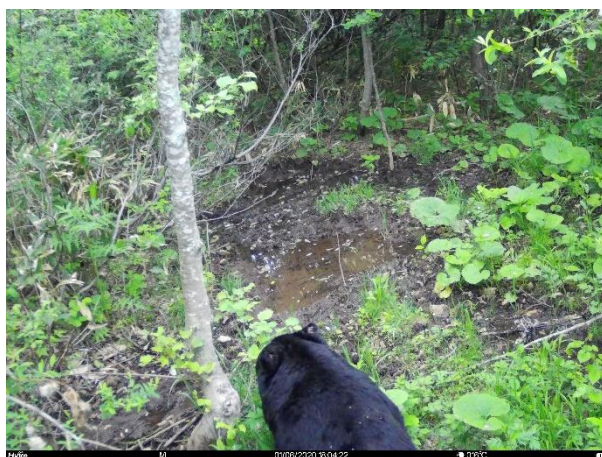
観測時間帯はほとんどが4時から20時の間であり、中でも夕方の16時から20時の間が9回で最も多く、それに続いて午前中の8時から12時が8回となっており、比較的明るい時間帯に活動する傾向が見られます。観測月は8月の13回が最も多く、7月の6回がそれに続いており、暑い時期に活動が活発化する傾向が見られます。観測回数の多かった場所は以下の通りで各4回でした。

・彩遊の森：ヤマナシ近傍 (7/1) 5:43, (7/19) 9:43, (7/29) 17:5, (8/1) 18:28

・彩遊の森：水場 (6/1) 18:4, (7/11) 17:20, (8/12) 10:5, (8/19) 15:28

(写真4)は水場で周辺の植物を食べている場面ですが、この場所をよく見かけるフキではないかと思われます。

<水場> 6月1日 18:4 (写真4)



・リスの森：混交林 (8/6) 16:17, (8/6) 16:50, (8/17) 4:39, (9/20) 22:25

(写真5)の画像はクマの体高が丸太より低いことから1年前の春に生まれた1歳半の子グマで、親から別れて単独生活に入ったところと思われます。一方(写真6)の画像は明らかに丸太の高さより高い体高であり、こちらは成獣です。(丸太高さ：約42cm)

<針広混交林> 8月6日 16:17 (写真5)

8月17日 4:39 (写真6)



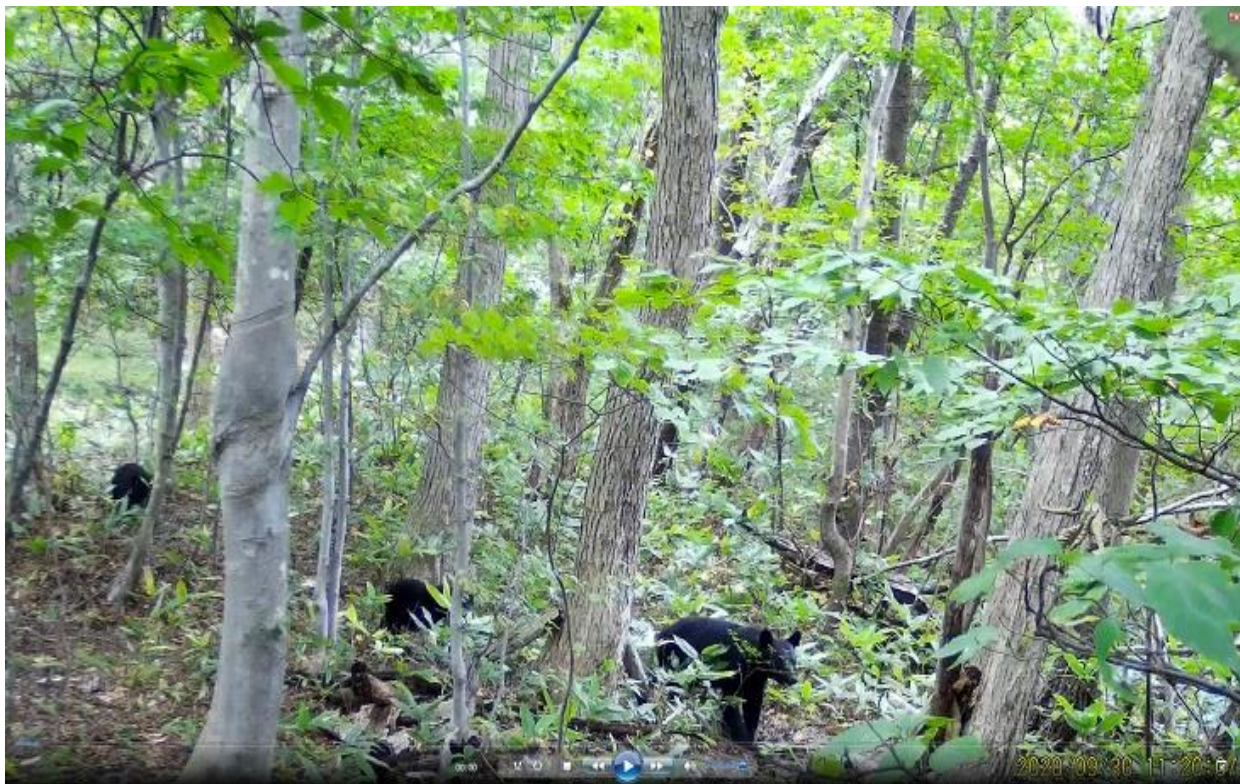
・リスの森：混交林近傍

(9/30) 11:20, (10/1) 10:19, (10/9) 5:28, (10/9) 17:7

下の写真は今年の春に生まれたと思われる2頭の子グマと母グマがリスの森を歩いているところです。母グマが先頭をゆったりと歩き、その後を遅れまいとやや速足でついて行く子グマたちの姿に、思わず頬が緩みます。

<針広混交林近傍>

9月30日 11:20 (写真7)



(写真 8) 左側の 1 頭は木から降りる寸前で、他の 1 頭は右奥に走り去り、それを追いかけるように左側の 1 頭も一目散に走り去る様子が写っております。どちらも子グマですが前頁 (写真 7) の子グマよりは大きいので 1 年前の春に生まれ、この年に親離れたものと思われます。興味深いのは同じ日の夕方 17 : 7 に母親と思われるクマが同じ場所で撮影されていることです。親離れた 2 頭の子グマを心配して遠くから見守っているのでしょうか。尚、写真 9 はこの年最後の観測となり、これ以降は観測されておりません。

<針広混交林近傍> 10月9日 5:28 (写真8)



10月9日 17:7 (写真9)



次の写真は彩遊の森でヤマグワの木に登ってヤマグワの実を食べている様子です。カメラを設置していた期間は 6 月 28 日～7 月 12 日の 2 週間で、撮影されたのは 7 月 5 日夜と 11 日朝の 2 日間だけでした。彩遊の森には樹高約 8m のヤマグワの木が 2 本あり、この木はその内の 1 本で胸高直径は約 15cm です。

(計測日：2020年4月12日)

<ヤマグワの木> 7月5日 19:12 (写真10)



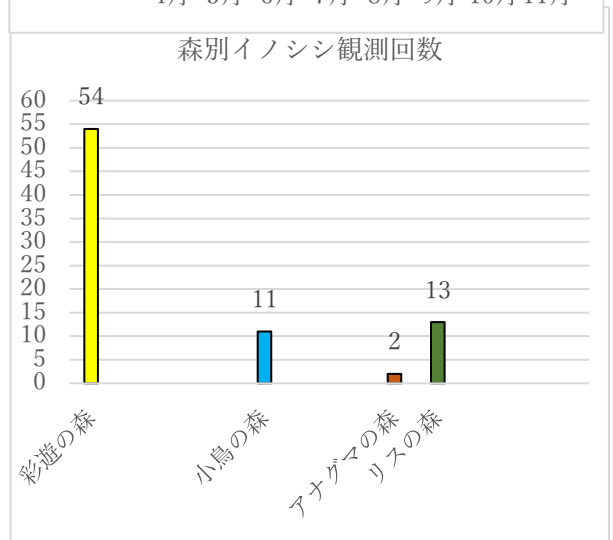
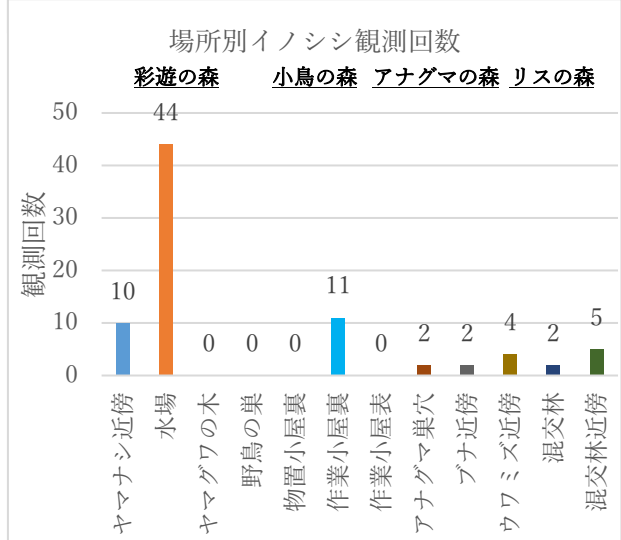
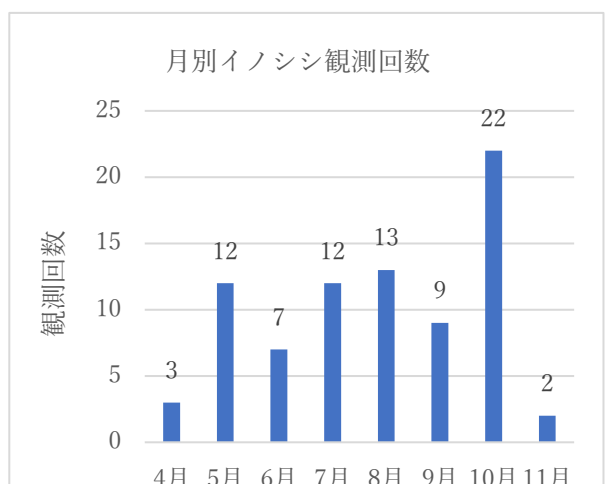
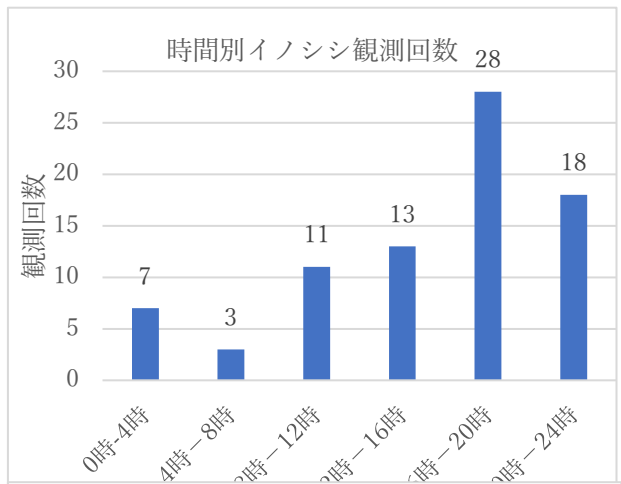
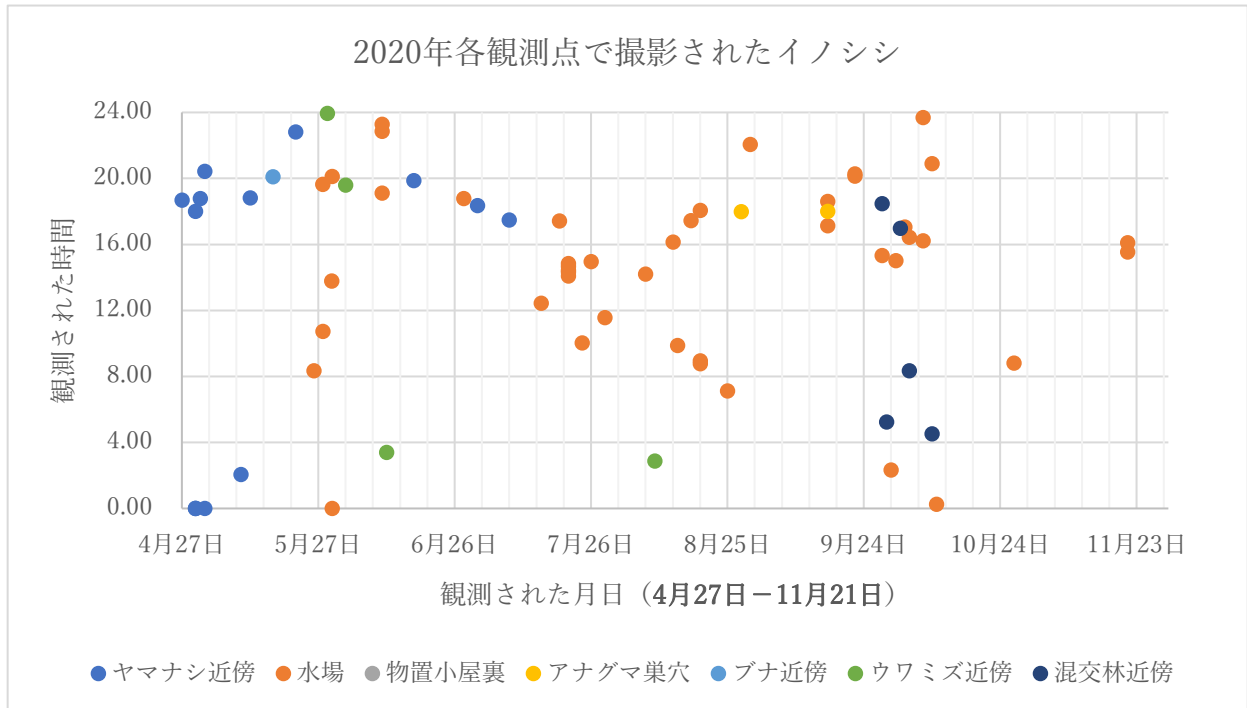
あまくておいしいな～ クワの実を食べ始めたらやめられないよ

7月11日 9:34 (写真11)



“バキッ バキベキッ” 枝をへし折る音が聞こえます

(2) ニホンイノシシ



・カメラ設置期間：4月26日—11月22日

・観測された期間：4月27日（ヤマナシ近傍）—11月21日（水場） ・総観測回数：80回

観測時間帯は4時～8時が3回が最も少なく、そこから時間の経過とともに11回、13回と増加し、16時～20時で28回とピークになり、そこから18回、7回と徐々に減っていく傾向があります。観測月については10月が22回で、8月13回、7月12回の倍に迫る回数でした。7月から10月の合計は56回で全体の80回の70%を占めており、この時期の活動が活発であることがわかります。観測場所については彩遊の森の水場が突出しており、全観測回数80回の内44回と50%以上になっています。ダニなどの寄生虫を落としたり、体温調節のためにこの場所を使っており、イノシシがこのような目的で使う場所をヌタバ（沼田場）と言うそうです。彩遊の森の水場ではイノシシのこのような行動が何度も撮影されており、ちなみに“のたうちまわる”という言葉は“ヌタウチマウル”から来ているそうです。出産は春から夏に行われ、1回に4～6頭生まれて生後2か月以内の子には縞模様がありウリ坊と呼ばれます。（写真13）はこの春4月頃生まれたのでしょうか。

<水場> 5月26日8:21（写真12）

5月28日10:46（写真13）



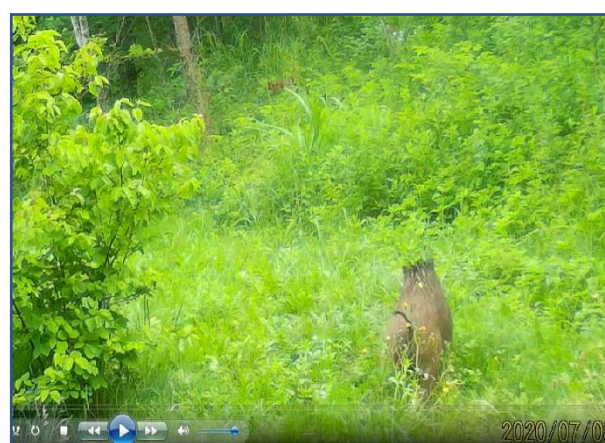
右側のイノシシにおっぴいが見えています。

<ヤマナシ近傍> 7月8日17:29（写真14）



母親が移動したので慌てて後を追いかけます。

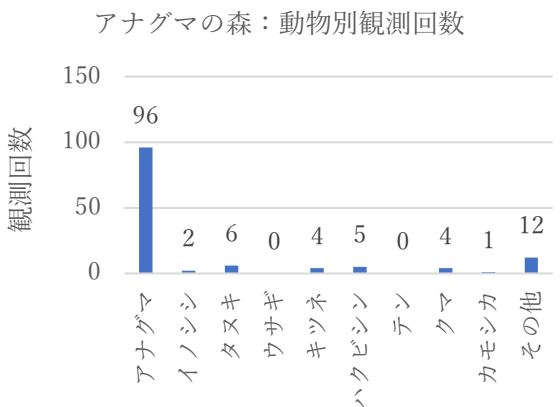
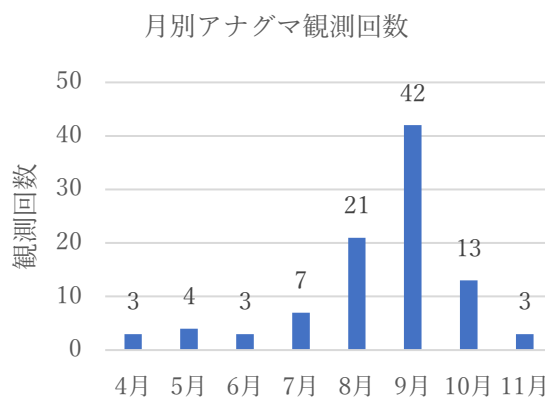
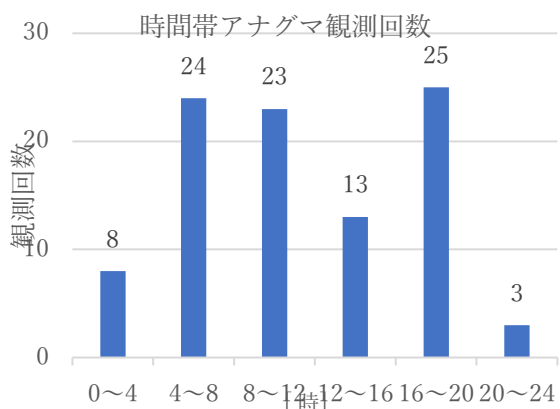
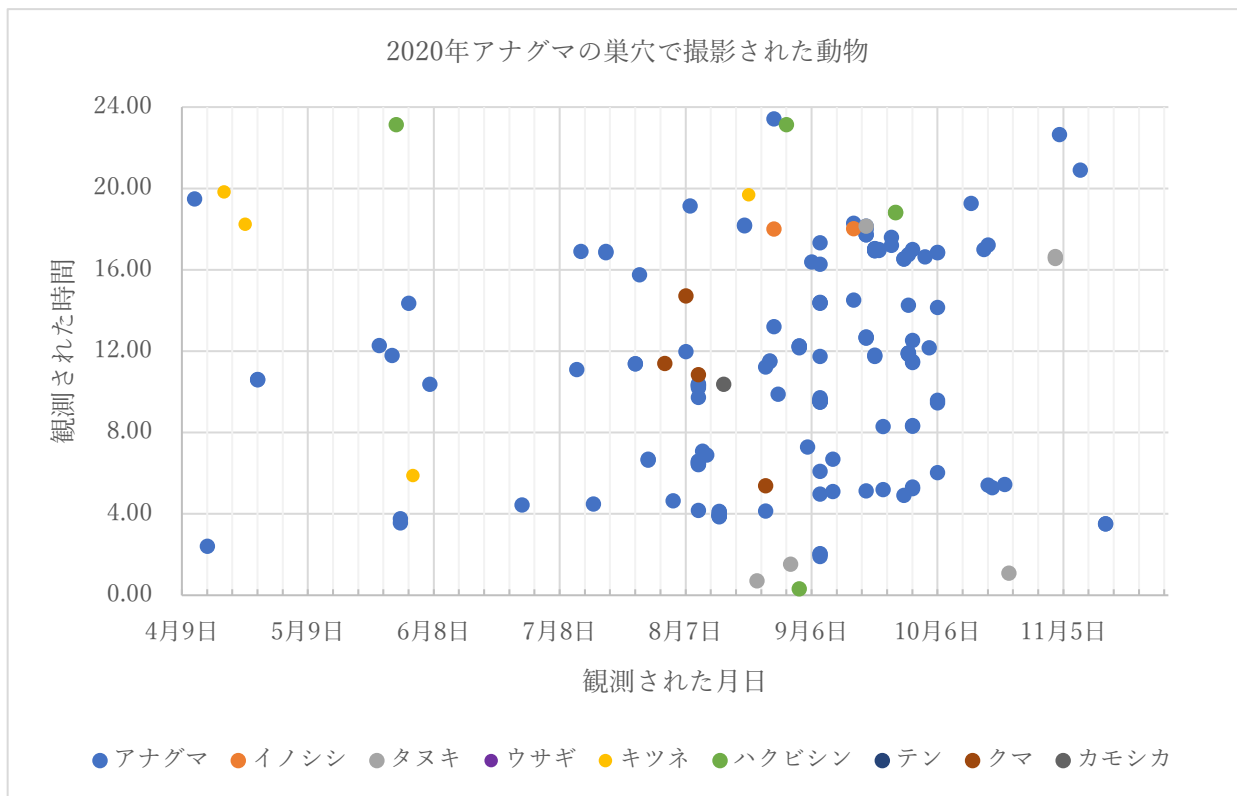
7月8日17:29（写真15）



背中に黒い毛のイノシシ：下だけ見て歩いてきたので、突如現れた目の前の木に驚き、90度方向転換しました

イノシシは猪突猛進というイメージとは裏腹に臆病で警戒心の強い動物であることが上の写真からもわかります。食性は雑食で土を掘り起こして植物の根やミミズ、カエルなどを食べますが、当植林地では至る場所で掘った跡が確認でき、ヤマユリの根が食べられて頭の痛い状態が続いています。4月下旬になると、水場ではヒキガエルの合唱が始まると共に、カラスの餌食にされる映像が映し出され、頻りに水場に来ているイノシシもカエルを食べているものと思われる。体色がこげ茶色の個体の他、毛が少なく明るい色の個体や毛深く黒っぽい個体など色々確認されており、交雑が進んでいると感じます。

(3) ニホンアナグマ



4月12日19:29 (写真16)

・カメラ設置期間：4/12-11/22

・観測された期間：4/12-11/15

アナグマについては予め確認してあった複数の巣穴の一つで、巣穴手前の木にカメラを設置してアナグマの生態観察を目的とした為、他の動物の観察件数は少なめでした。この巣穴の方角は北西を向いているため直射日光に晒されることはなく、周辺は笹が繁茂しており、ミズやネズミなどの小動物もいて、アナグマにとっては住みよい環境であると思われます。秋になると笹の葉を巣穴に運び込んで冬ごもりの準備と思われる光景を見ることができます。8 頁上の図に於ける青点がアナグマで、4 月上旬に巣穴から出始め、8 月上旬から 9 月下旬にかけて巣穴の外で活動する回数が増えており、中でも 9 月の活動が最も活発になっております。活動時間帯については朝 4 時から夜 8 時の間が大部分を占めており、明け方から夜にかけてあまり暗くならない時間帯が多いようです。

写真 16（8 頁右下）は、この年最初に撮影されたものです。まだこどもっぽさが残っているので前年の春に生まれた 1 歳の子と思われます。外の気温は 2℃とまだ寒いのですが冬ごもり明けなのでしょう。この年最初のカメラ設置が丁度この日でしたので、日中の人の気配に刺激されて夜になってから出てきたのかな？冬眠する個体の場合、主に 11 月下旬から 4 月中旬まで行われ、1 日の平均気温が 10℃以上になると活動し始めるらしいので、ここのアナグマの活動開始時期は少し早めなのかもしれませんね。

<アナグマの巣穴> 8月24日 17:24 (写真17)



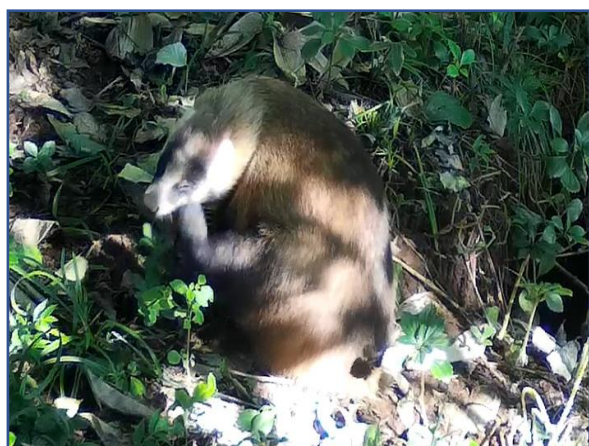
巣穴の周りにはイタチのイタローもいるよ～

8月26日 5:22 (写真18)



子グマのクーちゃんが巣穴の中を覗いています

<アナグマの巣穴> 9月8日 14:23 (写真19)



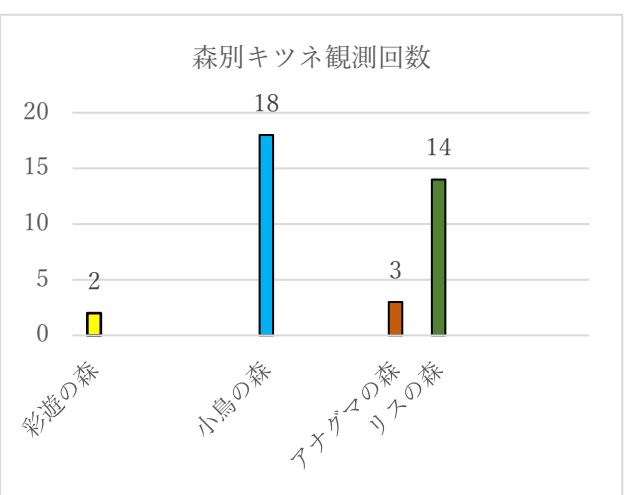
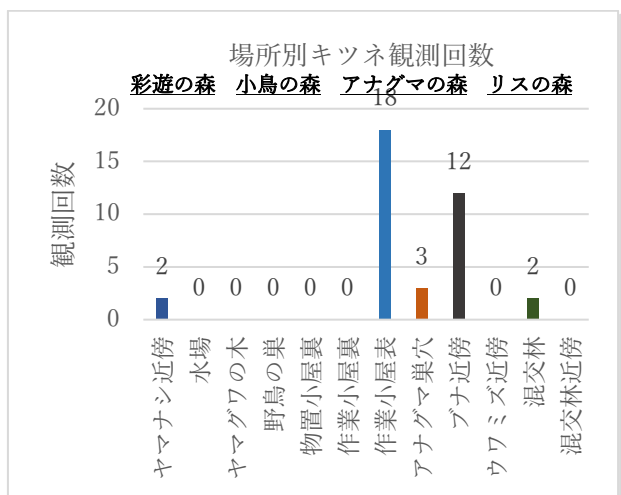
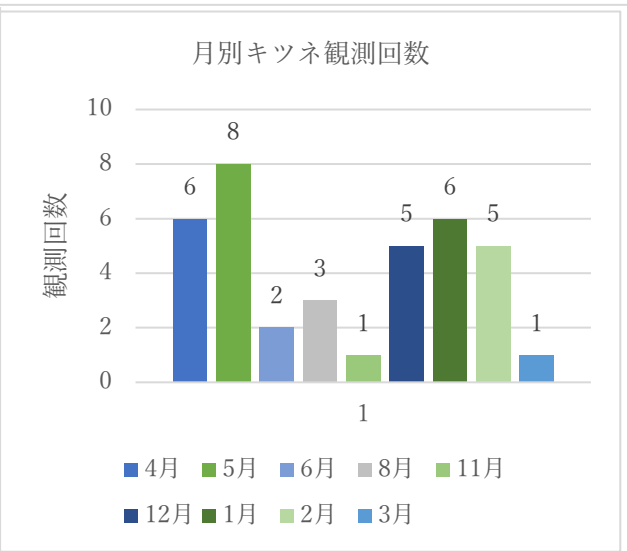
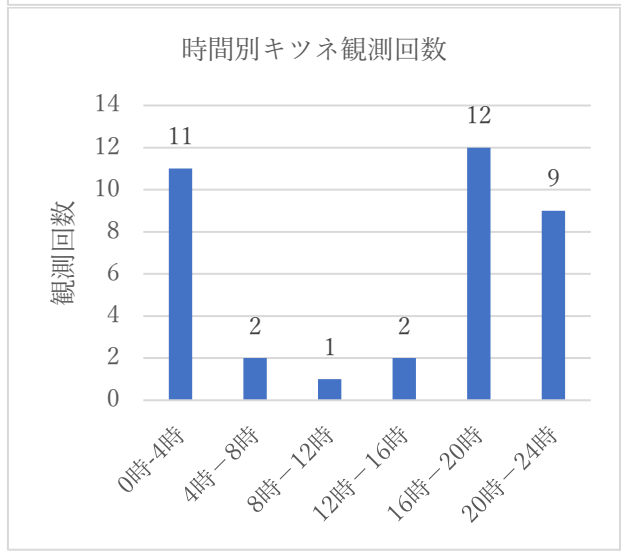
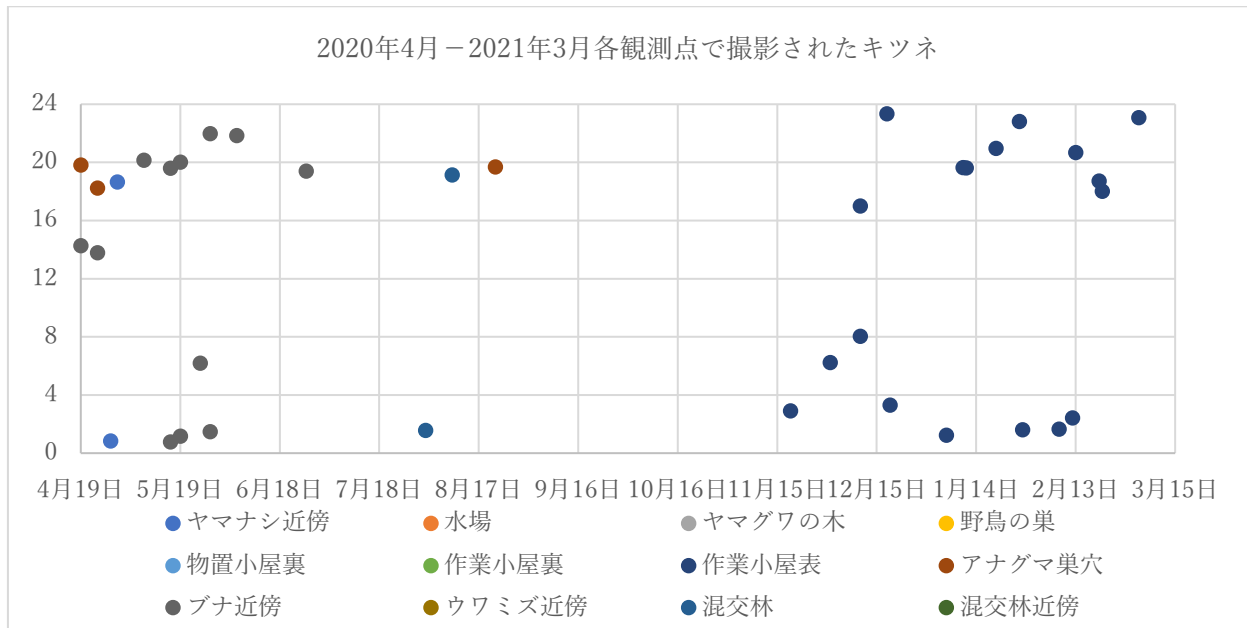
虫にさされたかな～ かゆかゆ

9月8日 9:30 (写真20)



よくかわいた笹の葉でふかふかのベッドをつくるぞー！

(4) ホンドキツネ



- ・カメラ設置期間：2020年4月12日—2021年3月14日、
- ・観測された期間：2020年4月19日（アナグマの巣穴/ブナ近傍）—8月22日（アナグマの巣穴）
2020年11月19日（作業小屋表）—2021年3月4日（作業小屋表） ・総観測回数：37回

観測されなかった期間：2020年8月23日—11月18日

この期間に於けるカメラ設置状況：

- <アナグマの巣穴> 8月23日—11月22日:作動中
- <針広混交林> 8月23日—9月27日:作動中
- <針広混交林近傍> 9月27日—11月22日（10月11日—11月22日：強風等の為、有効画像無し）
- <ヤマナシ近傍> 8月23日—9月27日（8月23日—9月12日：強風等の為、有効画像無し）
- <水場> 8月23日—11月22日:作動中

このようにキツネが観測されなかった3カ月近い期間、<アナグマの巣穴>と<水場>はカメラが作動しており、<針広混交林>も1カ月間は作動しています。尚、この場所では一瞬なので確信できませんが、キツネと思われる映像が写っています。（8月31日22時25分）以上の結果から夏の終わりから秋にかけての観測頻度は低く、冬から春にかけて活動が活発になるようで、時間帯は夕方から明け方にかけての暗い時間帯が多く、冬季期間の作業小屋付近にはよく来ているようです。不思議なのは、イノシシを筆頭にタヌキ、ハクビシ、クマ、カモシカ等たくさんの動物が水場にやってくるのですが、キツネは一度も観測されていないのです。あまり水を必要としないのでしょうか。この件に関しては今後も注視して行きたいと思います。

<ブナ近傍>5月16日 0:46 (写真21)



この年の春に生まれた子ギツネと思われます

<ブナ近傍>4月19日 14:16 (写真22)



匂いづけをしているのでしょうか

<ブナ近傍>6月26日 19:23 (写真23)



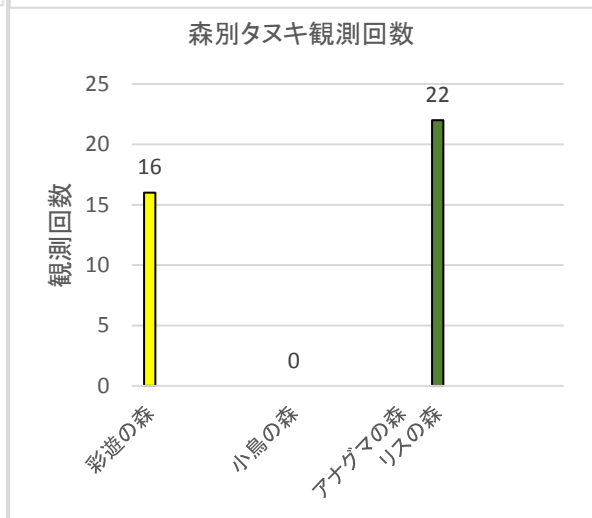
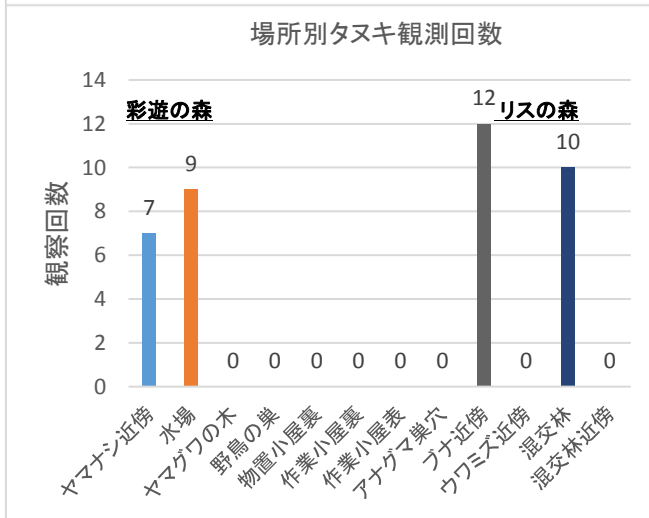
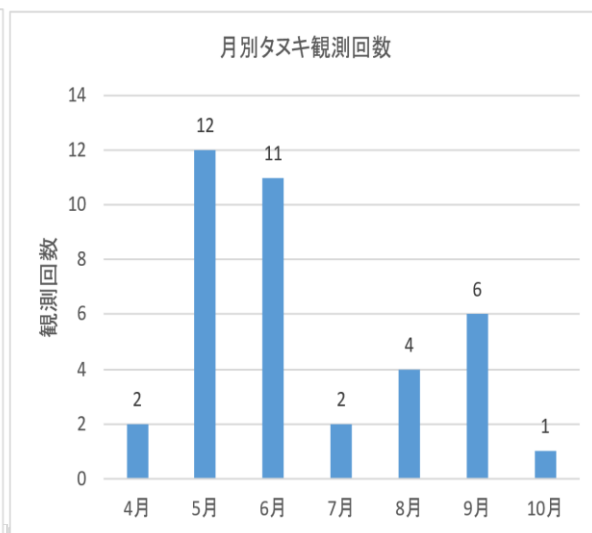
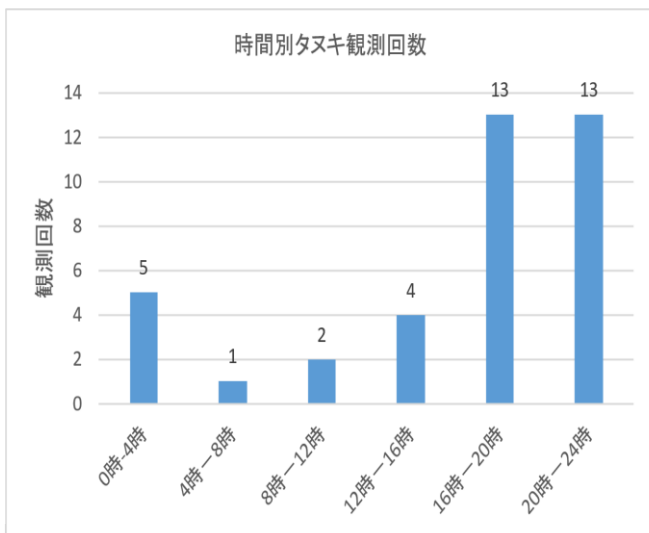
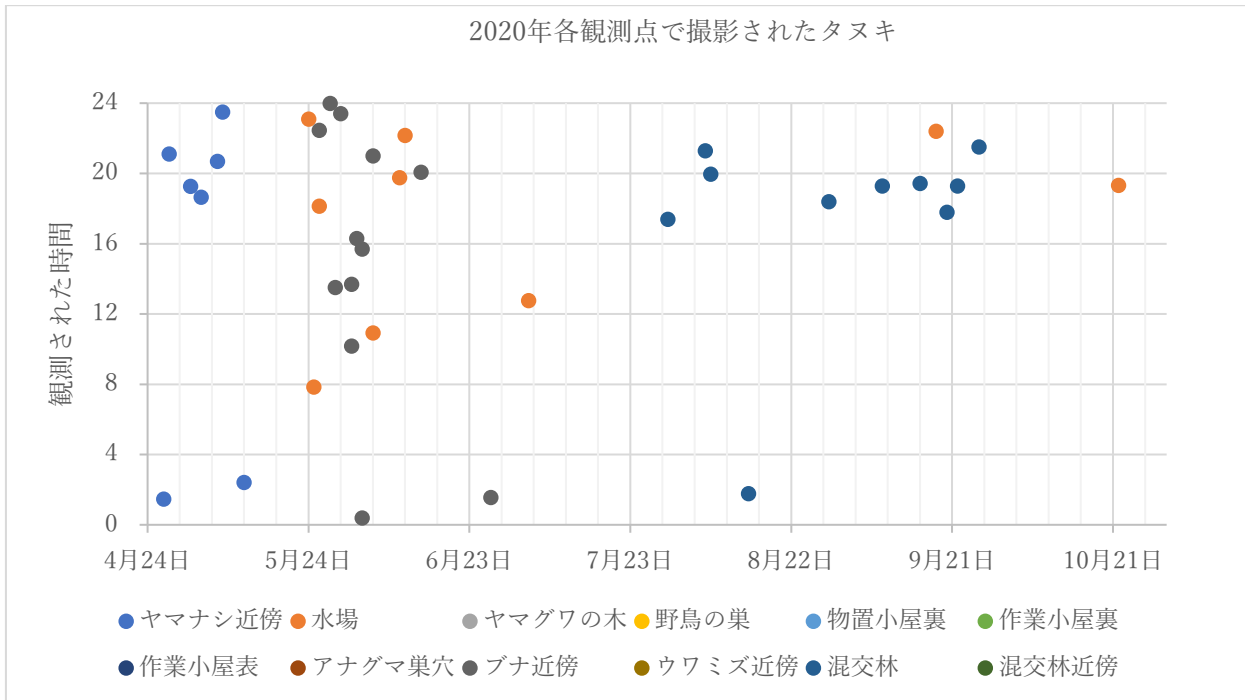
シャッターチャンス！

<作業小屋表>12月10日 8:02 (写真24)



作業小屋を後にどこへ向かうのか

(5) ホンドタヌキ



・カメラ設置期間：4月26日—11月22日

・観測された期間：4月27日（ヤマナシ近傍）—10月22日（水場） ・総観測回数：38回

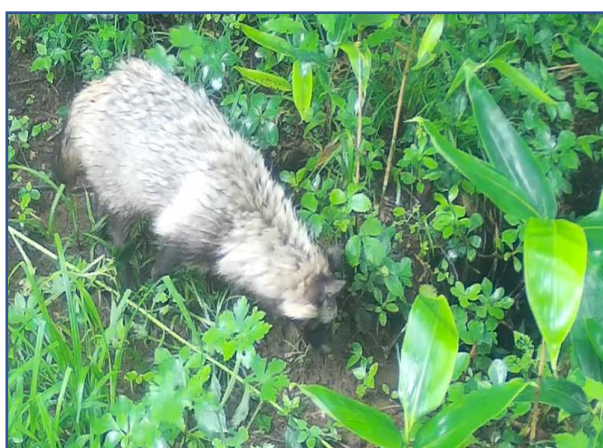
観測時間帯は16時～24時が26回の68%でこれに続く0時～4時の5回を含めると80%以上が暗い時間帯となっています。月別観測回数では5月と6月で計23回と全体の60%を占めていますが、場所はブナ近傍が最も多く、次いで混交林、水場となっています。ブナ近傍が多くなっている原因は、ブナの木の根元付近にキャットフードやビスケットを入れた容器を置いた為です。冬季観測はカメラ1台のみで行っているので何とも言えませんが、11月～3月は観測されておられません。この点、12月、1月、2月で16回観測されているキツネとは好対照の結果となっています。ちなみにタヌキは積雪の多い寒冷地の場合、冬季は穴ごもりすることが多いということです。ここに生息しているタヌキはアナグマの巣穴を出入りしている場面が観測されており、積雪の多い冬の間はこの巣穴で穴ごもりしているのかもしれませんが。

<水場> 5月26日 18:09 (写真25)



そろそろ夕食だな～ 好物のカエルの声は聞こえるが・・・

<アナグマの巣穴> 2021年7月3日 11:43 (写真26)



異常ないかな？ 巣穴を覗く親ダヌキ

<混交林> 2021年7月23日 5:46 (写真27)



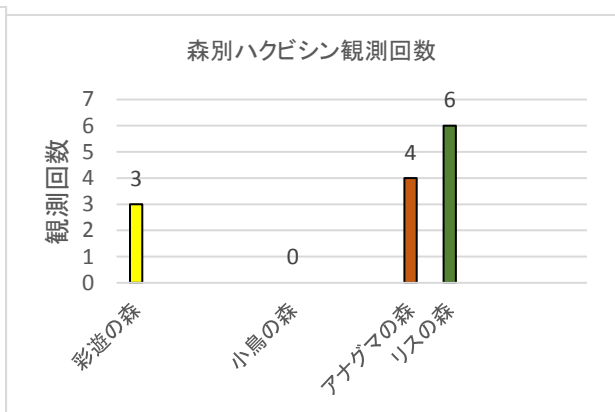
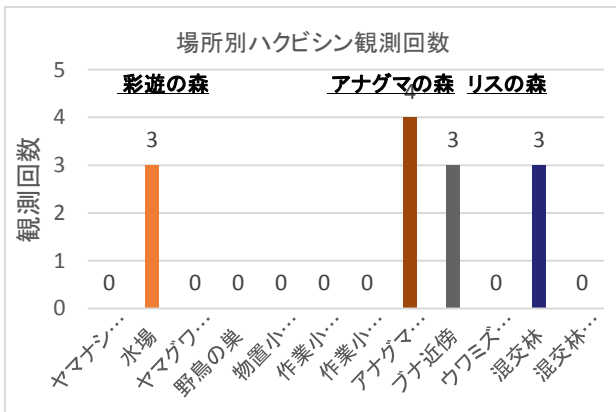
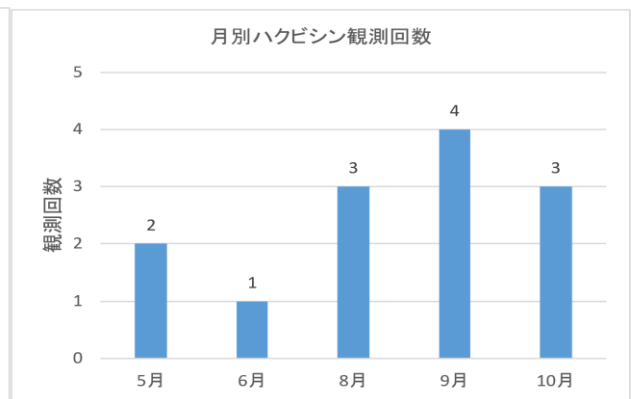
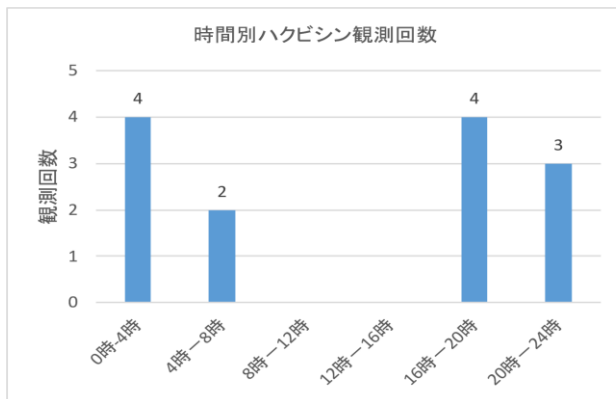
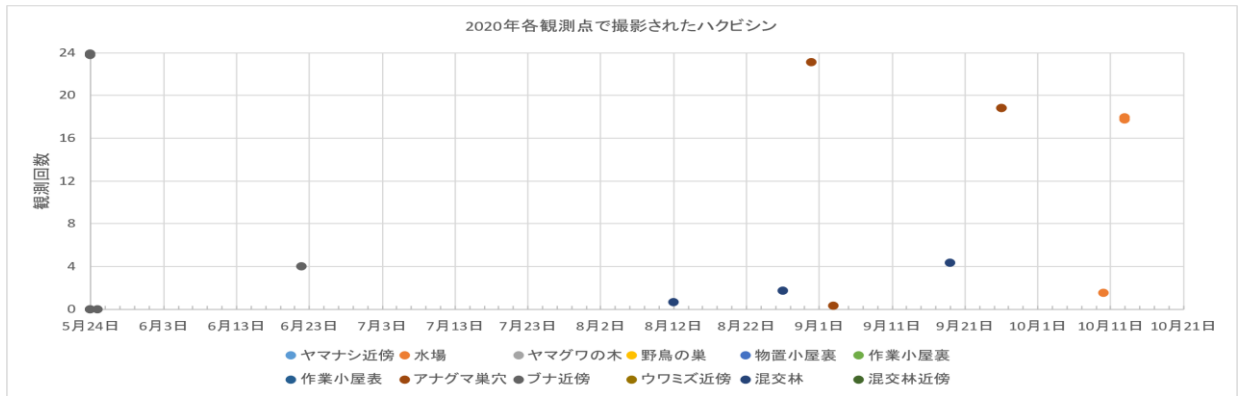
獲物を捕食したようです。

<アナグマの巣穴> 2021年7月2日 11:01 (写真28)



巣穴に入ろうとする子ダヌキの兄弟

(6) ハクビシン



・カメラ設置期間：4月26日～11月22日

・観測された期間：5月24日（ブナ近傍）～10月13日（水場） ・総観測回数：13回

<ブナ近傍> 5月24日 23:48 (写真29)

<アナグマの巣穴> 8月31日 23:08 (写真30)

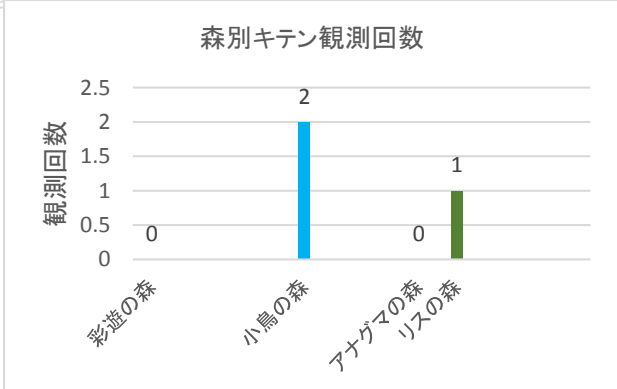
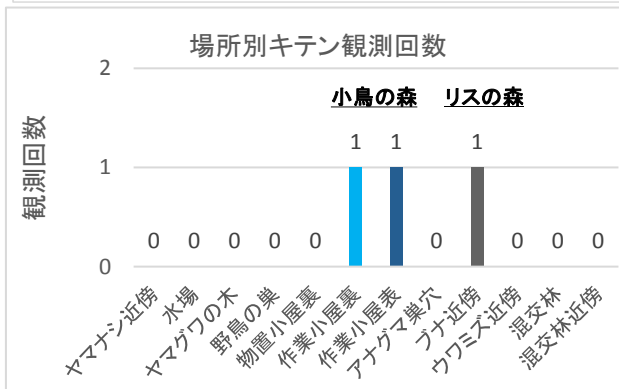
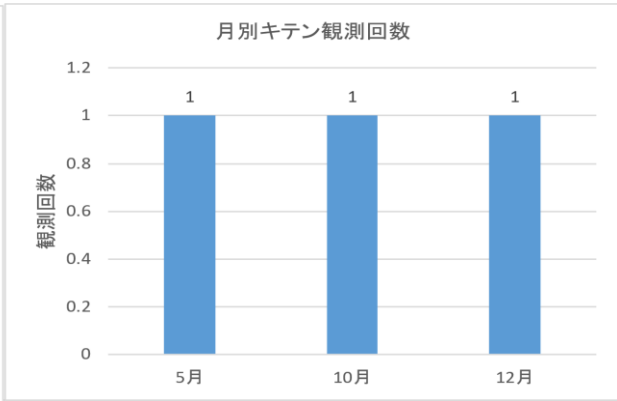
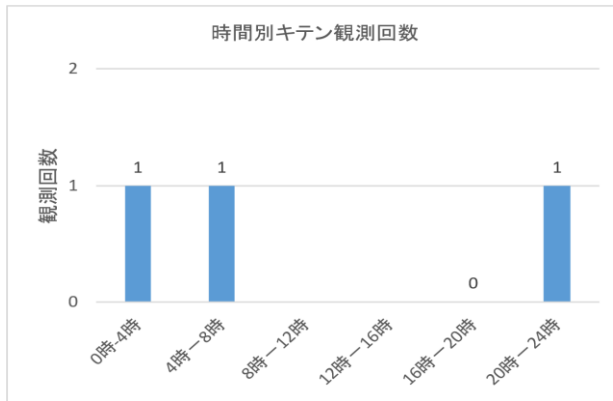
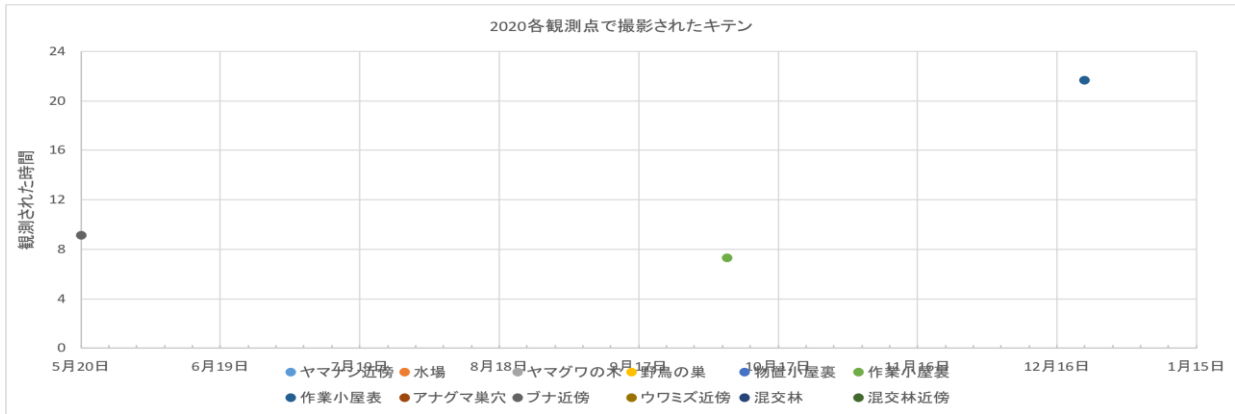


じまんの なが———— いしっぽ！



「アナグマくん、またね～」 シンタローが巣穴から出てきました

(7) ホンドテン (植林地にいるテンは夏毛が褐色、冬毛は黄色のキテンと思われます)

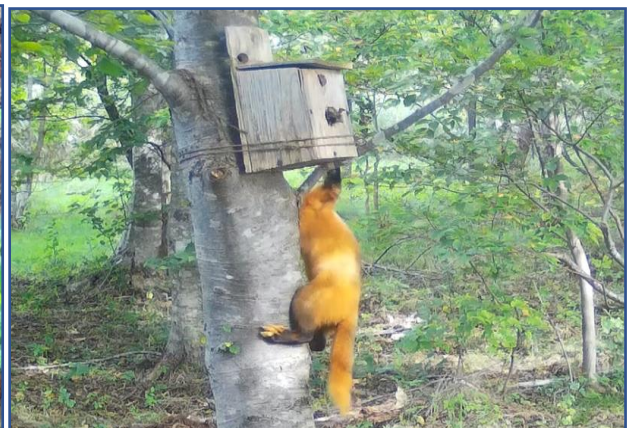


<ブナ近傍> 5月20日 9:10 (写真 31)



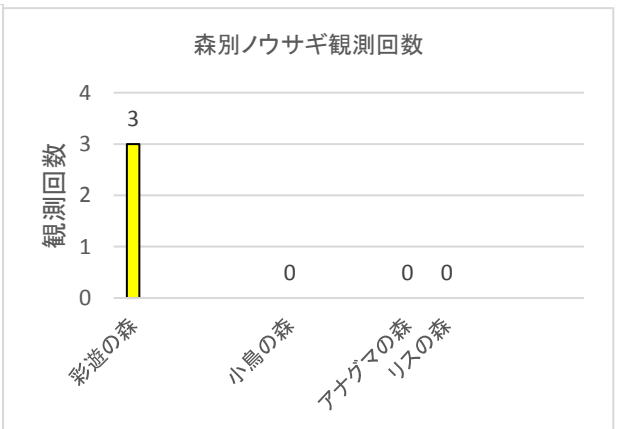
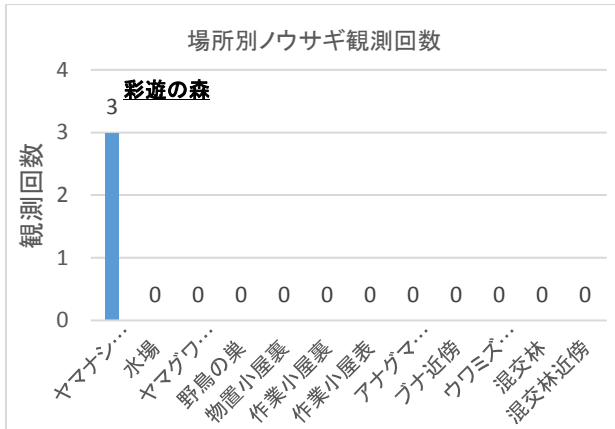
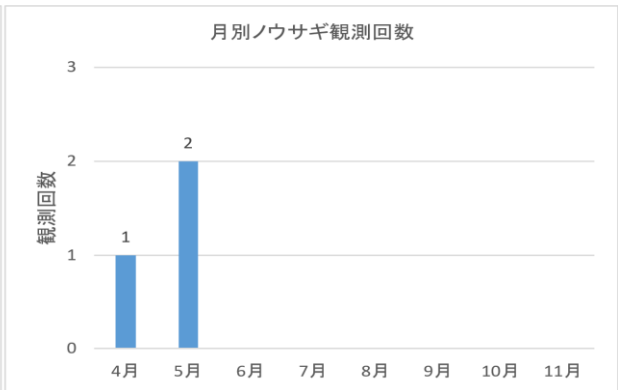
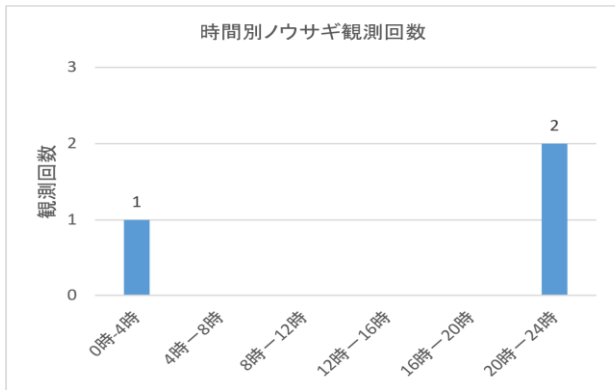
このネズミは逃がさないぞ〜

<作業小屋裏> 10月6日 7:20 (写真 32)



巣箱の中で何か動いてるな

(8) トウホクノウサギ



<ヤマナシ近傍> 4月27日 23:31 (写真 33)



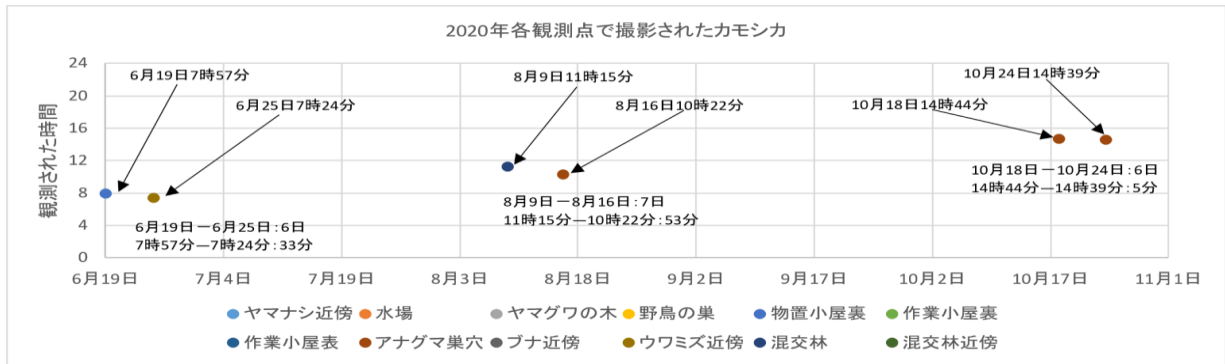
この時間（深夜）が私たちの食事タイムなんです

<ヤマナシ近傍> 5月9日 0:19 (写真 34)

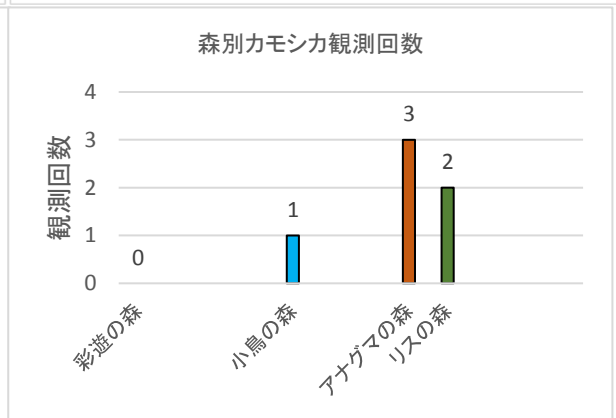
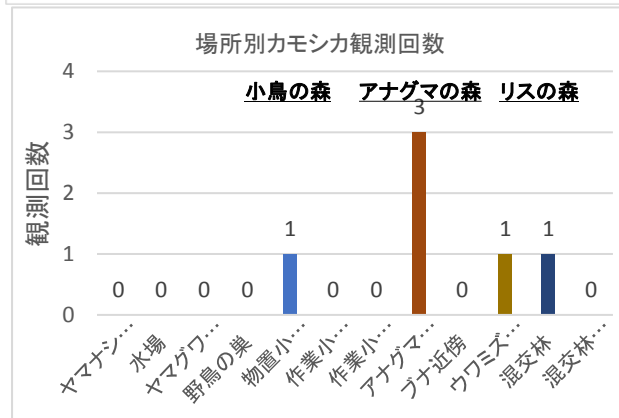
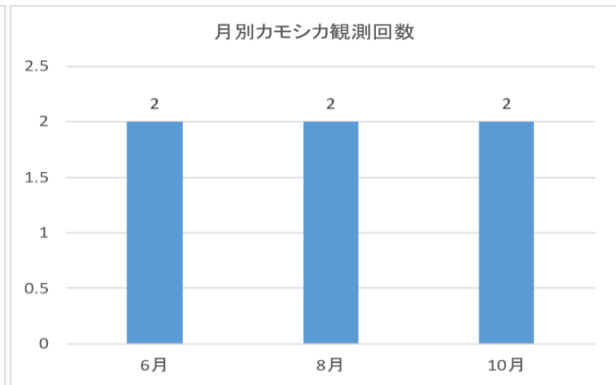
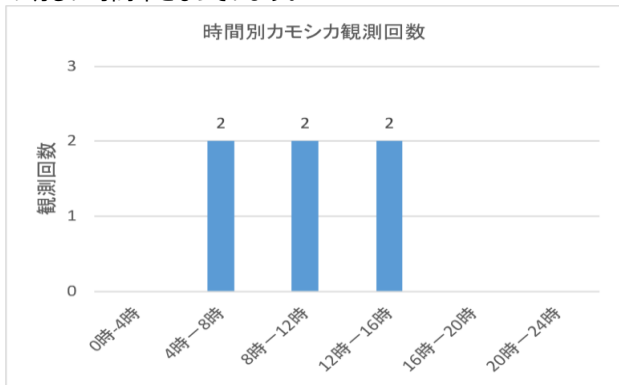


フクロウはいないかな？ キツネやテンにも気を付けなきゃ・・・

(8) ニホンカモシカ



1度現れると6-7日後再来しており、その時間帯も1時間以内の差で最も近い時は5分となっており、どの場合も7時～15時の明るい時間帯となっています。



<ウワミズザクラ近傍> 6月25日 7:24 (写真 35)



出産は5~6月ということから生後1か月ですかね~

<針広混交林> 8月9日 11:15 (写真 36)



左の写真から1年半で大分大きくなりました

(9) その他の動物

<水場>アオバト 8月28日 11:15 (写真37)



<水場>フクロウ 5月31日 4:51 (写真38)



<水場>ヤマドリ 5月30日 11:13 (写真39)



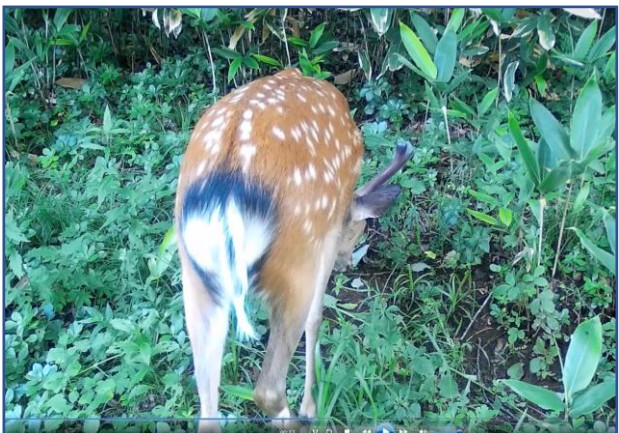
<水場>カケス 2021年4月22日 14:17 (写真40)



<水場>カラス 2021年5月4日 10:29 (写真41)



<アナグマ巣穴>ニホンジカ 21年7月6日 17:32 (写真42)



ハシボソガラスがヒキガエルをついばんでいます。この後、カエルを啜って飛び去りました。巣で待っている子供たちに与えるのでしょうか。

ニホンジカのオスは2才で角が1本生え、3才で枝分かれするということから、このシカは3才のオスと思われます。